

研究計画書

ゼミ名	宮川ゼミ	チーム名	ぴよぴよ LOVE
タイトル	ナッジ理論による階段利用促進の行動設計～脱！エレベーター！！！～		
テーマ群	a) 理論・情報		
メンバー	那須 和心美、前田 佳名子、中谷 颯太、松山 颯晟、若槻 航太		
研究計画内容	【研究背景】 学内でエレベーター横に貼られている「ケーキを我慢するより目の前の階段のぼったら？」というポスターを見たことがあるだろう。また、エレベーター前の混雑で通路が通りにくいと感じた人もいるかもしれない。こうした状況を受け、私たちはナッジのメッセージを活用し、エレベーター利用を減らすことで、より快適な学校生活を目指す。ナッジとは、選択肢を制限せずに小さなきっかけでより良い行動を促す手法だ。 【研究内容】 2020 年の災害時の早期避難を促進するナッジ研究では、コントロールグループに加えて利得や損失を意識させる 5 つのメッセージを提示することで、避難者の行動変容をさせることが行われた。そこで私たちは、階段利用を促進するポスターを「自己利得」の観点から 2 つ「自己損失」「社会損失」「参照点」の観点から 3 つの計 5 種類を作成し、どのポスターが 1 番影響力があるか、階段利用促進に対して効果が得られるかを測るアンケートを行った。6 グループでランダム化比較試験(RCT)の手法を用いている。アンケートの対象者は甲南大学の学生である。アンケート結果をグループごとの平均値に差の有無を調べる T 検定や、与えられた結果に対してどの要因がどの程度影響するのかを調べる回帰分析などを用いて、ポスターの有効性を比較する。また、アンケート結果から効果があると判断した 2 つのポスターを実際に甲南大学内に掲載し、効果を検証する。 【期待される効果】 アンケートで有効と判断されたポスターを掲示することで階段利用が促進され、エレベーター前の混雑緩和や通行環境の改善が期待される。階段利用の習慣化により健康意識が高まり、ナッジの体験を通じて学生の行動変容への関心も高まると考えられる。 【参考文献】 水上象吾,林隆紀(2023)「環境配慮行動としての階段利用促進における情報提供と行動変容の評価」『日本地域学会年次大会学術発表論文集 (Web)』 笠井昌人,山根承子(2014)「ポスターによるエレベーター利用者数の変化」『人工知能学会全国大会論文集』 高野稜大,太田真聖,倉澤凪,志村夏玖斗,日高優,茂木彩花,東周吾,根岸秀(2024)「エレベーターとエスカレーターの利用マナー向上を目指して ～大学内の問題をナッジで解決」『日本経済学会 2024 年度全国大会 学術発表論文集』 大竹文雄,坂田桐子,松尾佑太(2020)「豪雨災害時の早期避難促進ナッジ」『行動経済学第 13 巻』		

